

生 *Seikatsu Bunkashi* 史

生活文化史

<史料館だより>

目次

- ◇展示品との対話（十一）
 - レジスター.....水口千里 2
- ◇トライやる・ウィークと史料館.....道谷 卓 3
- ◇史料館日誌抄・資料寄贈者ご芳名..... 4

2002.5.1
NO.29

トライやるウィークと史料館
史跡調査をする本庄中学校の生徒
(P. 3 参照) ▶



神戸深江生活文化史料館

展示品との対話(十二)

レジスター

史料館研究員 水口千里

このレジスター、見学に訪れる子どもたちのお気に入りの資料である。バーコードを読み取る最新の機械ではなく、旧式のタイプライターのような数字キイのついたレトロな雰囲気レジスターである。金額表示窓がたった四桁、つまり最高金額が九九九円までしかなく、今の物価と大きな開きのあることが読み取れる。それもそのはず、昭和三〇年～四〇年頃のものなのだ。芦屋市内の布や糸など裁縫用品を扱う小間物店で使用されていた。店の隣には、名の知れた洋裁学校があった。

今日のレジスターの普及には、スーパーマーケットの登場が影響を与えている。スーパーマーケットが誕生したのは昭和二八年(一九五三)、東京青山であった。たくさん種類の商品がそろった広い店内で、買いたいものを自由に選び、清算は最後にレジで済ませる。専用の袋が用意され、買い物籠なして仕事帰りにもショッピングできる。スーパーマーケットは、高度経済成長のきざしが見え始めた日本社会で時代の申し子のようにもはやされ、わずか一〇年の間に全国で三〇〇〇店近くにまで増えた。そして、一括清算をするスーパーマーケットは、レジスターにとっての最高の働き場所でもあった。

レジスターの歴史は思いのほか古い。明治一二年(一八七九)にアメリカのオハイオ州、酒場の経営者が発明したと言われている。その人の名はリッティ。使用人が売上のピンはねをしていないかチェック

するためだったとか。毎度のように悔しい思いを味わったのが発明のエネルギーだったのかと思うと、なかなか面白い。

レジスターが日本に輸入されたのは、明治三〇年(一八九七)。当初は「金銭登録器」と呼ばれていた。奇しくもこの年、東京神田でミルクホールが開業している。ミルクホールとは、温めた牛乳と焼いたパンなどを出すファーストフード店のようなもので、簡便さとハイカラな雰囲気を受けて一時は大流行した。しかし、エプロン姿の女性が給仕していたことから、風紀上の問題が取りざたされ、すたれていった。明治時代のファーストフード店「ミルクホール」が「金銭登録器」のデビュー場所だったらピッタリだと思うのは、私だけだろうか。

ところで、このレジスター、今も昔も清算キイを押して現金が入っている引き出しが開くと、なぜか必ず「チン！」と派手な音を立てている。おもちゃのレジスターまで同じような音が出る仕組みになっていて、どうやらあの音とレジスターとは切っても切れない関係らしい。しかし、なぜあんな音が必要なのかと気にかかる。

同じように「チン！」と音をたてるもので、私がまず思いつくのは電子レンジである。最近の機種は派手な電子音やメロディが鳴るが、初期のころの製品は必ず「チン！」だった。今でも電子レンジを使うことを「チンする」と言う人もいるくらいで、一時は電子レンジの代名詞になっていた。この「チン！」は、「調理がおわりましたよ！はやく庫内から出してください！」というお知らせである。このごろでは電子レンジだけでなく、洗濯機、炊飯器などにも同様のお知らせ機能がついている。すぐ動くのが面倒でお知らせ音が鳴っても知らん顔していると、時間を置いて何度も繰り返す製品もあり、うるさいと思うこともたびたびだ。



レジスター▲▶

レジスターの場合は、「現金引き出しを開けました」というお知らせ音だろう。簡便な警報ブザーとしての役目もあるのかもしれない。なにしろ、発明者は使用者のごまかしに悩んだリッティである。使用者が勝手に現金引き出しを開けてもわかるような工夫のひとつやふたつはしているはずだ。

しかし、私にはそれだけでなく、あの音は「計算できました！清算が終わりました！」というお知らせ音にも聞こえる。買い物のお金を次々と入力され、最後の「チン！」とともに「〇〇円です」と告げられる。すると、なんの疑いも持たず条件反射のように支払っている。それが、知らず知らずのうちに習慣として身につけてしまっているような気がする。電子レンジや洗濯機も同じなのかもしれない。お知らせ音を、時にはおせっかいと感じながら、身体はつい反応している。にぎやかな「お知らせ民具」にいつのまにか慣らされている自分自身を、照れくさいながらも認めざるを得ないのだ。

トライやる・ウィークと史料館

史料館研究員 道 谷 卓

平成一三年も、恒例の「トライやるウィーク」が実施され、史料館でも本庄中学校二年生の二人を受け入れた。堀川麻梨さんと阿部紗織さんの二人で、六月五日と八日の二日間、史料館の業務を体験してもらった。

初日は館外へ出での史跡調査の実習や、館内の展示資料の収納・展示作業などを体験してもらい、二日目は館蔵品の整理作業と団体見学者の対応などを体験してもらった。

両日とも、デジカメ・パソコンを使用している作業があったものの、今の中学生は小さい頃からコンピュータをいじっているもので、二人ともこれらの機器の扱いをすぐに習得してくれた。

来館当初は、歴史にはあまり興味がないと言っていた二人であったが、二日間の体験で少しは身近な歴史に関心を寄せてくれたようである。

◀ 堀川 麻梨さん



▶ 阿部 紗織さん



史料館日誌抄

史料館研究員 道谷

卓

平成十三年四月以降

△平成十三年▽

6月5日 トライやるウィーク・本庄中学校二年生二名を受入れ、二日間に渡り史料館の業務を体験してもらう。

／8日 り史料館の業務を体験してもらう。

6月8日 神戸商船大学（見学者 二十五名）

6月29日 東灘区役所新規採用職員研修（見学者 二十四名）

8月4日 宝塚造形デザイン大学（見学者 五人）

10月12日 湊川多聞小学校 三年生（見学者 二十四名）

11月16日 魚崎小学校 三年生（見学者 一七五人）

△平成十四年▽

1月18日 本庄小学校 三年生（見学者 一二九名）

1月19日 御影小学校 三年生（見学者 七十四名）

1月24日 こうべ小学校 三年生（見学者 九十二名）

美野丘小学校 三年生（見学者 六十名）

1月25日 雲中小学校 三年生（見学者 七十名）

2月1日 六甲アイランド小学校 三年生（見学者 一三五名）

2月2日 西灘小学校 三年生（見学者 七十一名）

2月4日 本山第一小学校 三年生（見学者 一三三名）

2月7日 本山第三小学校 三年生（見学者 九十六名）

2月8日 宮本小学校 三年生（見学者 二十七名）

住吉小学校 三年生（見学者 七十二名）

2月14日 福池小学校 三年生（見学者 六十四名）

2月15日 灘小学校 三年生（見学者 三十四名）

2月16日 本山南小学校 三年生（見学者 七十二名）

2月22日 東灘小学校 三年生（見学者 一二二名）

資料寄贈者ご芳名

（敬称略・二〇〇二年四月）以降

△弓削妙子▽足踏みミシン／△高橋佳代子▽大型将軍将棋、算盤、郵便貯金通帳6冊、普通預金通帳3冊、証券保管証6枚、手提げ金庫／△青井立夫▽ミシン／△津村宮子▽巻軸帯、三角巾とガーゼのセット／△北条みちこ▽おひつ、ソケット／△岸貞子▽焼付版読売ニュース／△松井美子▽朱印帳2冊、スタンプ帳1冊、武庫郡誌、手紙はがき類一式、トランク／△藤川耕策▽ブリキ製バケツ／△木村和男▽ブリキ製衣装カン

編集後記

昨年度も、毎年恒例になった小学校三年生の団体見学の受け入れを無事終了することができた。過去最高の一七校・一四四九名の子供たちが、史料館で展示資料や館員の解説を通じて、地域の歴史と昔のくらしを学習してもらったことになる。

今年度からは学校も完全週休二日制の実施に伴い総合学習が導入され、史料館のニーズもこれまで以上に増してくることになるであろう。史料館としてもできるだけそのような要望に応じていきたいと思う。

(T・M)

『生活文化史』 第29号 02・5・1

編集／道谷 卓

発行／神戸深江生活文化史料館

〒658-0021 神戸市東灘区深江本町3-5-17

☎ 078-453-4980 (FAX兼用)